

聖書の**テサロニケ人への手紙第一4章、13-18節**です。立てる方は、お立ち下さい。私が読みますから、一緒に黙読してください。立てない方は座ったままで結構です。使徒パウロは聖霊によって、テサロニケの教会に手紙を書いています。13節

### テサロニケ人への手紙第一4章13節

**13 眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように 悲しみに沈むことのないためです。**

あなたがたはまだ悲しむのだが、望みを持たない人たちのようにはではない。そして、14節で、その理由です。

**14 私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。これが福音です。**

**それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずで**

**繰り返す、死んだ人のことを言っています。（15節）**

**15 私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。**

**16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、**

**17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。**

**18 このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。**

すごい！鳥肌です。祈りましょう。

主よ、ありがとうございます。主よ、今この時、あなただけがお出来になるように、あなたの御言葉の教えを祝福し、油を注ぎ、私たちの理解のために祝福してください。

特に、今日私たちの前にあるこの教義に関して。主よ、あなたの聖霊によってお語り下さい。私たちはイエスの御名で祈ります。アーメン。アーメン。

お座りください。ありがとうございます。というわけでおそらく言うまでもないことでしょう。

今この箇所を読みながら、私には皆さん全員の顔つきが見てとれました。きっと、皆さんの多くと同じだと思えますが、私はこの箇所を本当に楽しみにしてきました。その理由は明らかであると思えます。

主には、使徒パウロが神の御霊によって この教会に向けて書いている具体性のためです。教会の携挙についての健全な教義に関して。本日の6つの節の聖句には、三つの証拠があるのですが、聖書の中には多くの証拠、敢えて言うなら「非常に多くの」とも言える証拠があります。

なぜ携挙は7年間の患難の前に 起こらなければならないのかということについて。

「うわー、先生、かなり独断的ですね。」そうですよ。「ですが、先生、はばかりながら、患難前携挙の教義は、救いの問題ではありません。」その通りです。しかしながら、、、 「しかしながら」が付くんです。

それは救いの問題ではないかもしれませんが、間違いなく聖化の問題なのです。私はその理由と、そこに到るわけを説明します。この真理のインパクト、この健全な患難前携挙の教義は、私たちの生活に深い衝撃を与える可能性があります。使徒ヨハネが第1の書簡、3章2～3節で 書いている事に耳を傾けてください。

### ヨハネの手紙第一 3章

**3 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子供です。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。**

そして、彼はこう言っています。

#### 4 キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。

言い換えれば、この希望を持つ人々は、もういつでも主が戻って来られることを期待しつつ、あるいは予期すらしつつ、生活します。彼らは何をするのか？ 主の現れにこの希望を持っている人たちは？

彼らは何をしますか？ ああ、彼らは自分を清くし、彼らは身边を整理し、彼らは準備をします。そして彼らには用意ができています。主は、いつでも来られることができるからです。

教会がどういうわけか、7年間の患難の一部、あるいはそのすべてを経験することを私が信じるとするならば、皆さんは、実質的に... この不躱な言い方を許してください。でも、皆さんは、このような聖句の書かれた聖書のページを破り取らなければならなくなります。そして、他の多くの部分も同様に。

私が今日取り組みたいのは、3つの証拠を見る事です。私は 「証拠」という単語を使います。それが強い言葉であるのは分かっています。

ところで、携挙に関するあらゆる教えから、際立って不在しているのが、この「理論」という言葉でしょう。理論じゃないのです。それは真理です。それは教義です。それは健全な教義です。

そして、今日私がしたいことは... どうかお許してください。私は、自分が患難前の携挙に、非常に情熱を持っていることを自覚しています。私は最善を尽くします。私は賛美の間、私を静めてくださいと主にお願いしました。

時にそれはちょっと難しい注文だと思えます。しかし、これに関して、私を落ち着かせてくださるように。私はこれが非常に... こんな風に言わせてください。これはYouTubeにアップロードされる礼拝ですから。患難前の携挙に関する教えには何にでも反論、論争する人が多くいます。

そしてその辛辣な言葉、その悪質さは本当に嘆かわしい事です。だから、私は、特に、オンラインで見ている人のために言いたいと思えます。とにかく快く、見解の相違を認め合うことにしましょう。

しかし、神の御言葉と、また、今日、私たちの前にある聖句に関する限り、私は皆さんに、なぜ携挙が、絶対に7年の患難前に起こらなければならないのかをお見せしたいと思えます。

まず1つ目です。それは、それが「神のラッパの響き」だからです。

最初に読むと、これは重要ではないように思えます。つまりここにあるのは、漠然とした記述だとさえ言うかもしれません。このラッパが鳴り響くと告げられているのは。しかし、それは神のラッパの響きです。16節に留意してください。パウロが言います。この大きな号令があって、それとともに、御使いのかしらの声と、そして非常に重要なことですが、神のラッパの響きです。

「いいでしょう、先生。では、これはどうやって、携挙が7年間の患難前であることを証明するのですか？」なぜなら、聖書には、2種のラッパがあるからです。イスラエルのための、御使いのラッパがあり、そして教会のための、神のラッパがあります。どうか、どうか、どうか、その区別をしてください。

多くの人々は、患難前携挙の健全な教義に関して多くのトラブルに巻き込まれます。彼らが、教会とイスラエルを区別しそこなう時に。そして事実、私はそれをさらに突っ込んで、言います。

「置換神学」と呼ばれる偽の教えは、神に選ばれた民として教会をイスラエルと置き換えるのです。

その偽の教義、その偽りの教えは携挙に関する他の教えと、同居するものです。携挙に関する偽りの教えと。なぜなら、いいですか、教会がイスラエルに取って代わるならば、教会を患難の中に置かざるを得なくなります。なぜか、と？ 患難の目的は、ユダヤ人の救いのためだからです。そして、あなたがその区別をしそこなうと、あなたは基本的に、教会を患難の中に置いているのです。教会を患難の中に置く目的は何ですか。教会はすでに救われているのです。花嫁はすでに救われているのです。なのになぜ花嫁が、患難を経験する必要があるのでしょうか？ いえ、それはイスラエルの為なのです。だから、御使いのラッパの響きがあって、それはイスラエルのためのもので、そして、神のラッパの響きがあり、それは教会のためのものです。

マタイの福音書24章で、イエスが言われたことを聞いてください。再臨について話しておられます。そしてイエスは、弟子たちにイスラエルのことを話しておられます。彼の言われることを聞いてください。

## マタイの福音書24章30節

そのとき、人の子のしるしが天に現れます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。

「あらゆる種族」です。これは「すべての目が見る」再臨です。そして、主は御使いたちを遣わします。御使いのかしらですらありません。ただの御使いたちです。「大きなラッパの響きとともに、」これがイスラエルの為の、ラッパの響きです。

## マタイの福音書24章

**31 すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民（イスラエル）を集めます。**

それが違います。テサロニケ人への手紙の中で、パウロはそれを非常に明確にしています。それがイスラエルの為の、御使いのラッパではないことを。これは、教会の為の、神のラッパの響きなのです。

2つ目。これが、分かり切ったことのように聞こえるかもしれないのは分かっています。しかし、この聖書箇所内にある、患難前携挙の第二の証拠は、私たちが空中に引き上げられる、というものです。私は皆さんに、17節に注目していただきたいです。ここが、実際に「携挙」という言葉が聖書に出てくる箇所です。...そうなんです。ラテン語の聖書をお持ちなら。今日ここにラテン語の聖書を持っている人はいますか？ 挙手お願いします。どなたもおられない ルーマニアのオンラインメンバーがいて、前回、私がこのことを言及した時、コメントを投稿してくださり、「ルーマニア語では、『携挙（ラブチャー）』という語です。」と仰いました。だから、どなたかルーマニア語の聖書を持っていますか？

「携挙」という言葉は、あなたがお持ちの聖書の言語によっては、聖書の中にあるんです。さて英語では、2つの英単語で翻訳されています。"caught up（挙げられる）" ギリシャ語では「ハルパゾ」、ラテン語では「ラプトゥーロ」。そして、それは大きな力とものすごい速さで、引き上げられることを意味します。携挙される！ ひったくられる！ 即座に！ それがその言葉の意味です。

では、17節に戻ります。パウロが言っています。

**「次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引きあげられ、空中で主と会うのです。」**

ところで、私たちは、キリストにあって 亡くなった人々より先になることはありません。なぜなら、肉体の復活が先だからです。キリストにある死者が先によみがえる。ご辛抱いただけるなら、私はこれをざっと説明する必要がありますかもしれません。しかし、私がこれについて聞いた中で最も良い説明は、電球のたとえでした。いいですか？ 電球が切れます。どうしますか？ 私たちはそれを取り外し、ゴミ箱に入れます。それは、それが作られた地に戻ります。電気はどうなりますか？ その源に戻ります。光は？ それは止まったまま。私たちは、その電球のようです。私たちが死んだら、私たちの肉体は、その電球のように土に帰ります。「塵は塵に」、それが作られた場所に。電気は？ 霊のように、その源に戻ります。**「肉体を離れて、主のみもとにいる」**のです。（2コリント5:8参照）

光はどうなるのでしょうか？ それが魂です。死んでいます。そして、私たちが栄光の体を持つとき、それは再び、永遠に生きるのです。そして、肉体の復活が起こる時、それが最初に起こるのですが、その時、彼らは新しい体を得ます。そして私たちは、、、パウロが**1コリント15章51節～52節**に書いています。私たちは古い肉体を脱ぎ捨てます。もう待ちきれません！

**「朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、」**

「一瞬のうちに(in the twinkling of an eye)」です。ところで、これは... ...たぶん、これについては第5章でお話するでしょう。でも。。。それは10億分の1秒のほんの一部なんです。それくらい速いんです。生き残っている私たちが、新しい体を手に入れる時。だから電球は肉体で、電気は霊です。そして魂は光です。パウロが言っていることは、キリストにある死者が先に復活するということです。それが彼らの肉体的復活です。さて、彼らは今どこにいるのですか？ 今、彼らの霊は、主と共にいます。

「肉体を離れて、主のみもとにいる」のです。ならば、彼らがまず彼らの肉体を得ます。結構です。



そして、生き残っている私たちが、瞬時に、 私たちの新しい肉体を手に入れます。そして、私たちは空中で彼らに会うのです。では皆さん、お聞きになりたい事があるでしょう。皆さんの考えが読めますから。ちょっと待って、今何かが入ってくる。ああ、うわー。あらららら。

「これは、私たちが引き挙げられること、 携挙されること、 ハルパゾ、それをどう呼ぶとしても、それが7年間の患難の前であることを どう証明するのでしょうか？」

聞いてくださって、大変嬉しく思います。私は皆さんのその質問にお答えしますから。それが患難前携挙を証明する理由は、ユダヤ人の花婿が、思いがけないときに、夜中の盗人のように来るからです。

そして、彼らは彼らの花嫁を奪い、連れ去ります。それが、イエスがここで仰っていることです。

皆さん、...私がこれをやってから数年が経っています。だから、私は主に尋ねた後で、今日もう一度このことについて話すのが 適切だろうと考えました。それは私に言わせれば、患難前携挙の証拠のうち、最も納得のいく、説得力あるものの一つです。それは古代ユダヤの結婚式の習慣と関係があります。それは予型です。それは、患難前携挙の、この素晴らしく、美しい実態を表しています。皆さんが理解されているといいのですが、イエスが弟子たちに語っているとき、ところで、彼らはそれを理解したはずなんです。彼は花婿が花嫁に話しかけるように、彼らに話しかけておられます。皆さんにお話ししたいと思います。これは実際には、その予型を簡潔に説明するものです。殊に、携挙が必ず7年間の患難前に起こらなければならない理由について。私はざっと進めますので、付いて来てください。

ユダヤ人の結婚式では、それは結婚の聖約「ケトゥバ」です。それは花嫁への約束として、花嫁のために、書面でなされます。それは成就されると。私たちの結婚式では、それは新しい契約です。

それは、花嫁としての私たちの為に、書き記された神の御言葉において、書面でなされています。

そして、旧約の約束が成就されます。スクリーン（後ろ）に聖句を出します。皆さんはそれらを書き留めてもいいですし、お手持ちのハンドアウトにもあります。ユダヤ人の結婚式です。それから彼らはパンを裂き、婚約を確定するため、杯から飲みます。キッドゥシン、これは婚約式（ベトロール）。新しい契約、結婚の聖約です。私たちの結婚式では、彼は最後の晩餐で、パンを裂き、杯から飲まれます。

彼の新しい契約を、彼の血において確定するのです。私たちが、毎月第一日曜日にするように、一緒に聖餐にあずかるたびに私たちは花婿イエス・キリストへの 私たちの婚約を祝っているのです。このようにして、彼らはそれを確定するのです。花婿... 今、私たちには書かれた聖約があります。そして、花婿は花嫁に杯を与えます。それから彼女は「私はあなたと結婚します」と 承諾するかののように、その杯から飲みます。「私と結婚してくれませんか？」 「私はあなたと結婚します。私は受け入れます。」そして、彼らはパンを食べます。そうやって彼らは、この新しい結婚の契約である 婚約を確定するのです。

ユダヤ人の結婚式では、花婿は、花嫁に彼女への愛を示して、モハール、代価を支払います。私たちの結婚式では、イエスが代価を支払われました。それは十字架上で、彼にすべてを失わせました。

これは、イエスが私たちの為にご自分の命を捨てられたことに勝る大きな愛は、他にはないことを示しています。ユダヤ人の結婚式では... ここが面白くなる所です。花婿は、婚約式（ベトロール）の後、一彼らは今婚約を成立させています。一 彼らはパンを食べ、彼らは杯から飲みました。そして今、彼らは結婚するために、婚約しています。それで、花婿はどうするでしょう？ 彼は自分の父の家に行きます。

彼は婚礼の部屋を建て、父の家に部屋を追加します。イエスが弟子たちに仰いましたね。

**「あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。」（ヨハネ14：2）**

**「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。」（ヨハネ14：2a）**

皆さんの聖書の翻訳によっては、「屋敷」とあります。

**「もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。」（ヨハネ14：2b）**

**「（わたしは）また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。」（ヨハネ14：3b）**

イエスは、ご自分と婚約している花嫁に 花婿として話しているのです。さらに良いのがこれです。ユダヤ人の伝

続では、唯一父だけが、その日と時間を知っていました。花婿が戻って、花嫁を連れ去る時、取り去る時、携挙する時を。皆さん、結婚式を計画しようとするのを想像できますか？ 招待状。日付：不明。時間：不明。父だけが知っている。父親以外は誰も知りませんでした。そしてイエスは、御父以外の誰も、私たち、彼の花嫁のために彼の戻る日や時間を知らないと言っていました。さて、花婿が来るとき、ユダヤ人の結婚式では、花婿の付き添いが前方を走り、「彼が来るぞ〜」と叫びます。どうやって？

ラッパを吹いて。私たちの結婚式では、私たちの花婿が来るとき、それは神のラッパの響きになります。イエスが来られる、と。さて皆さん、スクリーンでお気づきでしょうか？ 黙示録4章1節。ここに理由があります。黙示録の初めの3つの章では、教会についての言及が、19回あります。4章1節以降、「教会」は言及されていません。黙示録の6〜19章は、全て7年間の患難についてです。「教会」という言葉が6〜19章で何回見つかると思いますか？これは引っ掛け問題ではありません。「ゼロ」です。一度もない。「教会」という言葉が、6〜19章にないのはなぜでしょうか？そこはすべて、7年間の患難について書かれています。教会は患難に含まれていないからです！それが理由です。なぜなら、4章の1節で、ヨハネはラッパの響きのような声を聞きます。

**「ここに上がれ。」（黙示録4：1）**

彼は携挙されます！今や、彼にあるのは未来だけです。ちなみに、4章1節から22章まで、それはすべて未来の事です。私たちが今どこにいるかご存知ですか？私たちはまだ3章にいます。

7つの教会への7つの手紙。2章と3章、教会の歴史です。4章1節で、あのラッパが鳴って、ヨハネが携挙されてからは、すべては未来の事なのです。実は、黙示録は面白いです。時間の関係上、あまり深入りしたくありませんが、本当に、ある人が名付けたように、この「神の筋書き」というものがあるんです。

1章で、ヨハネは**「あなたの見た事、今ある事、この後起こる事を書きしるせ。」**と言われます。（黙示録1：19）

言い換えれば、過去、現在、未来です。

黙示録1章：過去 彼はイエス・キリストが栄光を受けたことを目撃証人でした。そして今、御父の右に座しておられることの。それが黙示録1章。

黙示録2章と3章：現在。教会の歴史です。7つの教会に宛てた7つの手紙。実在した教会です。黙示録4章1節：携挙

6章〜19章：患難

20章：千年王国

21章と22章：新天新地

美しい！それなのに、黙示録は、理解するのが難しい本だと言われます。それが、聖書全体の中で唯一、それを朗読する者と、それを聞いて、それを心に留める人々に祝福を約束している書であるのをご存知ですか？

さて、次です。ユダヤ人の結婚式では、花婿は花嫁を奪って、連れ去ります。私たちの結婚式では、私たちの花婿イエスは、私たちを携挙します。彼の花嫁として私たちを連れ去るので。ユダヤ人の結婚式では、花婿は花嫁をこの婚姻の部屋に連れて行きます。彼が自分の父の家に、彼女のために用意したこの場所に。そして、彼らは婚姻を完成「ニッサム」し、祝います。その期間は... 用意はいいですか？

7：「シャブア」 七日間です。私たちの結婚式では？イエスは、彼が御父の家で私たちのために準備した婚姻の部屋に私たちを連れて行かれます。そして、私たちは婚姻を完成し、7年の間祝います。ですから、その7年間の前でなければなりません。ある解説者が、こんな風に言ったのが最高でした。

「この世が『患難している』間、私たちはお祝いしているのだ。」私は患難していただくありません。お祝いしたい。婚姻を完成をさせてほしいです。ユダヤ人の結婚式では、大きなご馳走がでます。これは私に大きな慰めをもたらします。なぜなら、それは、天国に食べ物があるという意味だからです。ハレルヤ！それって「アーメン」でしょうか？皆さんは中東の文化を理解する必要があります。これは私のアラブ文化に当てはま

ります。中東では、すべてがご馳走を中心に展開します。食事。一緒にパンを裂くこと。そして、「7」の後、花嫁と花婿は、婚姻の部屋から出てきます。彼らは、この巨大な結婚披露宴を開きます。「子羊の婚宴」です。もし7年の患難の間になるまで、花嫁を携挙しない場合は、問題が起こります。御怒りが注がれるまで花嫁を携挙しないとしたら、問題が出てきます。聞いてください。私は誇張するつもりはありませんが、予型にちょっかいを出してはいけません。それについては、モーセに尋ねるといいでしょう。彼はやってしまいました。ちなみに、そのせいで彼は約束の地に入れませんでした。彼は初回は、岩を打つよう命じられました。岩はキリストを表し、水が出ました。二度目、彼はとても怒っていました。神は言われます。「岩に命じよ。そうすれば水が出る。」モーセはどうしますか？彼はそれを打ちます！ほ〜!!!彼がそうやっていると、こんな感じです。「モ〜(モーセ)!!!!」「絶対にダメだよ！モ〜!!!」あの岩は、2度打たれるべきではありませんでした。なぜなら、キリストは一度だけ十字架につけられたからです。一度だけ打たれたのです。

十字架の後、あなたは岩に話しかけます。あなたはキリストに話しかけるのです。そして、モーセは予型を台無しにしました。そのせいで、彼は約束の地に入ることができませんでした。予型はそれほど深刻なものなんです。旧約聖書のすべては、人としてのイエス・キリストを指しています。彼は、すべてのものを成就されます。すべてです。すべて。すべてのいけにえ、神殿でのすべての儀式、すべては、人としてのイエス・キリストを指し示しました。ある人はこう言いました。

「旧約聖書は、新約聖書が明らかにする内容を隠している。」新約聖書は何を明らかにしていますか。イエス・キリストです。すべては彼を指し示しているのです。

では最後に、ユダヤ人の結婚式では、花嫁の新しい家はエルサレムでした。そして、花婿が、花嫁と一緒に住まうために、花嫁のところに来たのでした。そして、新エルサレムから、私たちの花婿であるイエスが、その先永遠に私たちと一緒に住んでくださるのです。最後に、3つ目の理由です。携挙が、7年間の患難前に起こらなければならないのは、私たちが互いに励まし合うことができるからです。18節に注目してください。パウロがこう言います。

**「こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。」(テサロニケ第一4:18)**

今、皆さんが理解しなければならないのは、テサロニケ人は非常に落胆し、非常に戦い疲れていたことです。彼らは意気消沈していました。パウロは彼らを励ましたいと思っています。そして、「この言葉でお互いを励まし合うことができる」と彼は言っています。では、「それがどのように患難前携挙を証明するのですか？」さて、これについて考えてみてください。パウロはどのようにして「これらの言葉でお互いを励ましなさい。」と、言えたのでしょうか？「地球の人口の3分の1が殺され、一掃される。

「7年間の患難の間は、言い表せない恐怖、考えられないほどの恐怖になるだろう。だから、お互いに励まし合う...」合わないでしょ？さて、それはどう患難前携挙を証明するのですか？

なぜなら、それが7年の患難前でないとしたら、使徒パウロは、生き残ることについての警告を与えていたはずで、逃れることについて励まし合うようには言ってはいなかったはずです。おそらく皆さんは、携挙が「大脱走」と呼ばれるのを聞かれたことがありますね。私はそれが大好きです。実は、以前は好きではありませんでした。クリスチャンが、健全な患難前携挙の教義について、善意で私に、「ああ、逃げたいだけだ！」と言う時、私は、こんな感じです。「もちろん!」「違う?」「あなたはそうではないの?!」「あなたはここにいてそれを経験したいのですか?」「あなたは7年間の患難の間に、何が起こるかを読んだことがありますか?」「ここにいてそれを経験したいの???

御心ならば、来週は5章です。その理由は、5章が4章の後に来るからです。私はそれが深〜い意味だと知っています。私たちは私のもう一つのお気に入りの聖句に取り組みます。預言アップデートで非常に頻繁に話す聖句です。それはテサロニケ第一5章3節で、ここに理由があります。パウロが言います。

**テサロニケ第一5:3**

**人々が、『平和だ。安全だ。』と言っている そのようなときに、突如として 滅びが彼らに襲いかかります。**



**ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。**

どうしてパウロはそんなふうに言うのでしょうか？ 心に留めてください。彼は、、、ところで、章や節に分けられていませんでした。原本には章や節はありませんでした。それは後々になって、できました。だから、これは彼が次のように言い終わった直後のことなんです。

「生き残っている私たちが、たちまち 彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、...」

「この言葉をもって、互いに励まし合なさい。」

そして彼が「生き残っている私たち」について 話した後、彼は、これが起こるときに生き残っている 「彼ら」について話します。私に言わせれば、重点は「私たち」はのがれる、「彼ら」はのがれない、ということです。逃れることが携挙です。突如として滅びが起きたら... 突如の滅びに関しては、皆さん、突如の滅びがどういうものかご存知ですか？ 突然なんです。またしても、深いことじゃないのは..。

私は、気取ったり利口になろうとかしているわけではありません。それはものすごく突然に起こるんです！ ものすごく急に！そしてそれは、妊婦に産みの苦しみが臨むように、彼らを襲う... なお、これは救い主自身が終わりの時を描写する際に使われたたとえです。それは産みの苦しみのようなものです。

それはどんどん強度と頻度を増していきます。生き残っている「私たち」ではなく、「彼ら」に襲いかかります。「彼ら」はのがれることがない。生き残っている「私たち」はのがれるのです。それは、7年間の患難前であればなりません。最後にもう一つです。それから締めくくって、 預言アップデートに移ります。旧約聖書の全体を通して、患難前携挙の青写真があります。

例えばヨセフ。7年間の飢饉の前に 異邦人の花嫁を娶ります。それは患難前携挙の青写真です。

ノアはどうでしょう？ 多くのクリスチャンは、「箱舟は救いだ」と言います。いえ、ノアと彼の家族はイスラエルを表しています。彼らは洪水に入り、洪水の真っ只中で救われます。

でもエノクは？ お～。(創世記) 5章です。もうたまりません。「エノクは神とともに歩んだ。」そして「彼はいなくなった。」とあります。神が彼を取られたから！ そうです、神は彼を携挙したんです。洪水前に！洪水前です。彼は洪水前の信者でした。ええ、私はそのように考えています。エノクは教会の雛型です。そして、ノアはイスラエルの雛型。旧約聖書全体にたくさんあります。しかし、ダニエル書に入ると、 もう一つ非常に興味深いのがあります。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ 覚えていますか？ 日曜学校で学んだのを覚えますか？ 恐らく？ あのパネルシアターでやりましたよね？ 彼らは燃える炉に入ります。ところで、その中にいくつかの詳細があります。彼らがああ燃える炉に投げ込まれた理由は、偶像を拝むことを拒んだからです。6つの楽器が演奏され、高さ60キュービット、幅6キュービットで、666。彼らはその偶像を拝もうともしませんでした。だから彼らは炉に投げ込まれ、、、

ここでもう一つ、非常に重要な詳細があります。普通より7倍熱くした燃えさかる火の炉です。6じゃない。調べてみてください。私の言うことを鵜呑みにしてはいけません。ベレヤの人たちのように聖書を調べ、これが真実かどうかを確認してください。8倍熱いのではなく、7倍。何という偶然でしょう。

偶然はありません。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、イスラエルの雛型です。彼らは7年間の患難を表す、7倍の熱い火の炉に入ります。そして、その真っ只中に救われるのです。ネブカデネザル王は啞然とします。**「私たちはそこに3人入れた。」「...四人の者が見える。... 第四の者は神々の子のような。」 (ダニエル 3：25b)**

そうです！それはイエスです！ 彼らは7倍の熱い火の炉のど真ん中で、イエスによって救われるのです。イスラエルが、イエスによって救われるように！ 彼らの真の救世主によって。7年間の患難の真ん中で。ダニエルはどこ？ ああ。いい質問。聞いてくださって嬉しいです。聞いてくれましたよね？

彼はそこにはいない。なぜいないのですか。ああ、なぜなら、炉に入る前に、ダニエルは、取り挙げられ 高い地位に上げられました。炉の前に。教会の雛型です。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、イスラエルの雛型です。...それがいかに重要かわかりますか？ 教会とイスラエルを区別することが。最後に言わせてください。そして、すでに最後と言ったのは 分かっています。しかし、これは最後の最後です。いいですね？ イエ

ス・キリストの教会の携挙は、7年間の患難前に起こらなければなりません。

だからあなたは励まされなさい。そして、互いに励まし合いなさい。私は、皆さんの多くが、非常に困難な時期を経験していることを知っています。そして私は、神の言葉から、この言葉で、これらの言葉で皆さんを励ましたいと思います。私自身、とても励まされています。たぶん、皆さんには分からなかったでしょう。私は心の中で考えます。そのラッパは、もういつでも鳴りえます。そして私の娘ノエルと、私の母と、私の父もだったらいいと思いますが、彼らは先に自分の体を得ます。肉体の復活が先です。そして、彼らは空中にいるのです。私は主に会い、空中で再び彼らに会うのです。まじ?!とところで、パウロはそもそも彼らに 何について書いていますか? 彼は、彼らの亡くなった愛する人たちについて、彼らの質問に答えています。彼らはどうなるのか? それはすべて、携挙とどのように兼ねあうのか?

...さて、これが最後の、最後の、最後になります。面白いと思いませんか。私は面白いと思います。使徒パウロは... ちなみに、これは彼が書いた最初の手紙です。それはテサロニケ人宛でした。...私たちが学んだように、彼はそこへ戻りたいと 望み焦がれていました。彼は町を追い出されたから。彼はたった3週間しかそこになかったと 信じる人たちもいます。面白いと思いませんか。 彼はこの教会を始め、彼らに語り、彼らを励ましています。患難前の携挙の健全な教義に関して。わずか3週間の期間で。

うわー! うわー! 彼の書簡の一つで初めて福音が書かれているのは、この教会に対してです。

うわー! それは何を意味するのでしょうか。はい。私は最後だと言いました。それでは、祈りましょう。

主よ、ありがとうございます。私は今日ここにいる方、または オンラインで見ている方のために祈ります。本当に傷つき、意気消沈し、落胆し、苦悩している方のために。主よ、私はあなたがこれらの言葉で、あなたの御言葉からのこの真理で、彼らを励まし、彼らの心を強めてくださることを祈ります。

もう、まもなくすぐに、そのラッパは響きます。そして、生き残っている私たちは引き挙げられます。

そして、私たちは永遠にあなたと一緒にいるのです。主よ、早く来てください。マラナタ。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

---

メッセージby JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記hukuinn7